

新潟県立がんセンター新潟病院 地域医療連携だより

NEWSLETTER



平成 29 年 1 月



基本理念

県民をはじめとする全ての患者さんに、最善のがん医療を提供します。

基本方針

1. 常に診療情報を開示して、患者さんとの信頼関係をもっとも大切にします。
2. がん診療連携拠点病院として、すべての医療機関と連携を密にします。
3. がんの研究を行うとともに、患者さんのための医療人の育成に努めます。
4. 病院運営の適正化と効率化に努めます。



contents

院長あいさつ
遺伝カウンセリング外来と遺伝性乳がん卵巣がん
症候群外来（HBOC 外来）開設のご案内
マンモグラフィ装置が新しくなりました
がん化学療法をうける患者さんの
治療と生活を支えます

お知らせ
地域医療連携講演会を開催します
50周年記念紹介動画を
ホームページに公開しました
平成 29 年 2 月外来診療予定表

院長 あいさつ

新潟県立がんセンター新潟病院 院長 佐藤 信昭



新年にあたり、ご挨拶を申し上げます。

日頃から、当院にご支援をいただき、誠にありがとうございます。本年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。

当院は昨年10月1日より、トータルケア病棟（地域包括ケア病棟）の運用を開始しました。この病棟は「がん診療の地域包括ケアシステム」を構築するために回復支援、退院支援等に重点を置いております。

今年は当院が都道府県がん診療連携拠点病院に指定されてから10年目の節目の年を迎えます。その節目の年に、がん対策推進基本法の第3期基本計画が策定されます。第3期基本計画ではがんを克服し、活力ある健康長寿社会を目指すために、治療の個別化、がんとの共生、予防・検診の3つのポイントが挙げられています。これからのがん治療は、従来の手術療法、放射線治療、分子標的治療薬を含めた化学療法に、免疫療法を加えた4本柱となります。がんゲノム情報に基づいて、より有効性が高く、有害事象が少ない薬物療法や遺伝性腫瘍の検査・治療などの精緻な個別化治療が行われます。当院でも遺伝性乳がん卵巣がん症候群（HBOC）外来の設立をはじめとして、がんゲノム医療実現に向けて新潟大学等との協力体制を進めます。

がんは国民病と言われ、がん経験者である「がんサバイバー」は数百万人にも上ると推定されるにもかかわらず、いまだ社会には「がん＝死」のイメージが根深くあります。これを払拭し、社会全体でがん患者さんを支援して、がんになっても安心して暮らせる社会をめざします。ハローワーク、産業保健総合支援センターとも連携した就労支援を行い、働きながらのがん治療を進めたいと考えています。緩和ケアセンターを中心に患者の苦痛のスクリーニングを始めたところですが、さらに緩和ケアの充実に努めます。

日本は超高齢社会であり、高齢者はがん罹患率、死亡率が高いことから、今後も患者数の増加が予測されます。健康寿命を延伸するためにも予防・検診が重要となります。がん検診や精密検査の実施とともに、学校におけるがん教育にも協力していかなければならないと考えています。

高齢者向けの医療ニーズが高まる一方で、2025年には人口は減少するため、その時に適正な医療・介護を提供するためいろいろな方策が取られています。地域医療構想の策定、新公立病院改革ガイドラインによる改革、2017年度は地域医療連携推進法人という病院の効率的な経営を目指す制度もスタートします。さらに、2018年には診療報酬と介護報酬が同時に改訂されます。

当院においては、安全で良質ながん医療を提供し、連携に努めることが、地域医療構想に資することになります。信頼していただける、より一層良質ながん医療を提供し続けるため、精一杯努力してまいります。先生方のご指導とご支援を心よりお願ひ申し上げます。



遺伝カウンセリング外来と 遺伝性乳がん卵巣がん症候群外来（HBOC 外来）開設のご案内

新潟大学大学院医歯学総合研究科家族性・遺伝性腫瘍学講座（産科婦人科）
特任准教授 西野 幸治

【はじめに】

皆様こんにちは。新潟県立がんセンター新潟病院では2016年8月より遺伝性乳がん卵巣がん（HBOC；Hereditary Breast and Ovarian Cancer）の遺伝カウンセリング外来とBRCA1/2 遺伝子検査を開始しておりましたが、この度2016年11月1日付けで、新潟県からの寄付講座「家族性・遺伝性腫瘍学講座」が新潟大学内に開講し、県立がんセンター内で「遺伝性乳がん卵巣がん症候群（HBOC）外来」を開設させて頂くこととなりました。本講座・外来を担当させていただきます、新潟大学産科婦人科の西野幸治と申します。今回、がんセンターの地域医療連携だよりに取り上げていただけると伺いまして、その概要についてご案内・ご説明させていただきます。

【HBOC について】

一部の乳がん・卵巣がんは、その発症に遺伝学的要因が強く関与することがわかっており、その中で最も頻度が多いのがHBOCです。これは、DNAの修復に関与するBRCA1/2 遺伝子に生殖細胞系列変異（生まれながらの変異）を持つことによるもので、遺伝子変異をもつ場合には、70歳までにがんを発症するリスクが乳がんでおよそ40～80%、卵巣がんでは15～40%程度とされています。遺伝子変異が判明した米国ハリウッド女優さんが、予防的に乳房や卵巣卵管を切除したことがマスコミでも大きく取り上げられたのは記憶に新しいところです。

このBRCA 遺伝子変異の情報は、今後の乳がん卵巣がん治療に大きな変革をもたらす可能性があります。2015年1月、米国オバマ大統領は一般教書演説の中で「precision medicine（プレジジョン・メディスン）」という政策について触れました。これは、個人の遺伝情報の違い等に基づいて、個別化した治療や疾患予防をしようという考えです。BRCA 遺伝子変異を持つ場合にはpoly ADP-ribose polymerase（PARP）阻害薬という薬が効きやすいことがわかってきており、卵巣がんや乳がんでの開発・治験等が進んでいます。日本においても卵巣がんに対するPARP 阻害薬の保険適応取得が目前に迫っており、まさにBRCA 遺伝子変異の有無によって治療方法を選択する「precision medicine≒個別化治療」が現実になろうとしています。

このBRCA 遺伝子変異は、親から子に50%の確率で遺伝します。よって、もし乳がん・卵巣がん患者さんご本人にBRCA 遺伝子変異があるとわかった場合には、これらのがんを発症していないご家系の方も、同じ変異を持っている可能性があります。すなわち、HBOC に対してはご本人だけでなく、家系の方も含めた遺伝カウンセリング・遺伝子検査・サーベイランスなどが考慮されます。さらには、予防的な乳腺・卵巣卵管切除（現時点では限られた一部の施設における自費診療のみ）の選択肢も出てくるかもしれません。

【遺伝カウンセリングの対象になる方】

- ・若年者（特に40歳未満）で発症した乳がんの方
- ・両側や同一側でも繰り返し乳がんを発症した方
- ・乳がんや卵巣がんに罹患した血縁者がおり、かつご本人が乳がんの方
- ・トリプルネガティブ乳がんの方
- ・卵巣がんの方（粘液性がんを除く）

などが対象になります。HBOC のカウンセリングに興味のある乳がんや卵巣がんの患者さんがおられましたら、主治医の先生を通じて、地域連携・相談支援センター（TEL：025-234-0011, FAX：025-234-0022）

でHBOC 外来の予約を取って下さい。なお現時点では、乳がんや卵巣がんに罹患した血縁者がいても、ご本人が乳がんや卵巣がんになっていない方は原則対象としておりません。

【HBOC 外来】

水曜日午後、木曜日午前中です。私ともう1人、須田一暁特任助教の2人で担当します。

- ① HBOCに関する一般的な説明を行い、理解していただく。
- ② ご自身・ご家族の乳がん・卵巣がん等の病気の状況（家族歴）を聴取して、遺伝カウンセリングを受けられるかどうか判断するためのお手伝いをする。
 遺伝カウンセリングには家族歴が大切です。遺伝カウンセリング外来受診希望で、家族歴が十分に確認できない場合には、専任の看護師が看護外来で家族歴の聴取を行っています。
- ③ 遺伝カウンセリング外来受診後、遺伝子検査で変異陽性など遺伝的な背景が強いと判断される場合は、フォローアップ（サーベイランス）のお手伝いをする

【遺伝カウンセリング外来】

毎月第3火曜日午後です。臨床遺伝専門医、認定遺伝カウンセラー及び専任の看護師で担当します。HBOC 外来よりさらに詳しく HBOC のことや、遺伝子検査を受けることの意義を説明、遺伝子検査を受けるかどうかの意思決定を支援する、自由診療の外来です。

【料金】

HBOC 外来受診は原則保険診療ですが、遺伝カウンセリングと遺伝子検査は自費になります。

| | |
|---------------------|--------------|
| 遺伝カウンセリング外来受診 | 5260 円 |
| 遺伝子検査 発症者（患者さん）向け検査 | 約 21 万～24 万円 |
| 血縁者向け検査 | 約 3 万 5000 円 |

【最後に】

新潟県立がんセンター新潟病院には以前より、菊池婦人科部長と金子乳腺外科部長が率いる HBOC 専任チームが患者さんのため地道な努力を続けておられました。このチームは臨床遺伝専門医、婦人科腫瘍専門医、乳腺専門医、認定遺伝カウンセラー、乳がん看護認定看護師、がん看護専門看護師、婦人科乳腺外科担当看護師、地域連携・相談支援センタースタッフ及び医事課職員など多職種から構成されています。私達も専任チームと協力して、よりよい HBOC 診療を目指したいと思います。県と大学が手を組んで、HBOC に関する医療を進めていこうという今回の試みは全国初のケースです。家族性・遺伝性腫瘍学講座開講にあたりご尽力いただいた県病院局、新潟大学産婦人科榎本隆之教授及び新潟県立がんセンター新潟病院佐藤信昭院長にこの場を借りて深謝致します。



2016年12月29日の新潟日報にHBOC チームのカンファレンスの様子が掲載されました。

マンモグラフィ装置が新しくなりました

中央放射線部 桐生 朋子

がんセンター新潟病院には本院に1台、がん予防センターに1台、計2台のマンモグラフィ装置があります。本院は10年以上前の装置でしたが、昨年12月に新しくなりました。今年度中には、がん予防センターの装置も新しくなる予定です。

本院では年間2千人以上の方がマンモグラフィ検査を受けられています。ほとんどが乳がん術後の経過観察の方です。毎年のように検査を受けているのですが、それでも皆さん緊張されるようです。緊張すると肩に力が入り、乳房が上手く挟めなくなるので、緊張をほぐすことも良い検査を行うためには必要です。

新しい装置の東芝製「Peruru」は外観が機械的な冷たさを感じさせない丸みのあるデザインになっており、清潔感のあるパールホワイトカラーにバラ模様のデザインを施しました。更に、検査を受けられる方の緊張が和らぐよう、殺風景だった撮影室を装置の模様合わせた温かみのある部屋に改装しました。

装置の技術的な面では、被ばく線量が約30%低減され、画質も向上しました。今までの装置と画像の作成方法が全く異なるため、撮影してから画像が表示されるまでに数十秒かかっていたのが数秒に短縮され、検査時間が短くなりました。また、撮影台がコンパクトで日本人の体形に適しており、しなやかな圧迫板で痛みの少ない圧迫システムが採用されています。

マンモグラフィは乳房を挟んで圧迫し、できるだけ乳房を薄く伸ばした状態で撮影しますが、人によっては圧迫により痛みを伴う場合があります。全く痛みを感じない方もおり、痛みは人それぞれです。よく聞かれる質問なのですが、乳房の大きさと痛みは全く関連性がありません。

なぜ圧迫をするのでしょうか。圧迫には大きな3つの理由があります。1つ目は固定です。写真全般に言えることですが、動いているものを撮影するとブレた写真になります。乳房は柔らかく動きやすいので、圧迫して動かないように固定します。2つ目は厚さを薄くすることです。薄くすることでX線の透過が良くなり、被ばく線量を下げることができます。3つ目は乳腺を広げることです。乳がんは乳腺から発生するのですが、乳腺密度が高いと正常な乳腺に隠れて、病変が見えないことがあります。特にアジア人は欧米人に比べ乳腺密度が高いので、乳腺を広げて病変を見えやすくすることは重要です。痛みはご本人にしかわかりませんので、「もう我慢できない」と言われると、それ以上は圧迫できません。ですが、理由がわかると痛みも少しは我慢できるのではないのでしょうか。

安心して検査を受けて頂き、診断に有用な画像を提供できるように、装置などのハード面だけでなく撮影技術などのソフト面においても、引き続き努力していきたいと思っています。



がん化学療法をうける患者さんの治療と生活を支えます

がん化学療法看護認定看護師 磯貝 佐知子

がん化学療法は、手術療法・放射線療法・緩和療法と並び、がん治療において重要な治療のひとつです。がん化学療法は、長期間にわたること、抗がん剤を取り扱うこと、副作用や治療内容により生活に制限が生じてしまうという特徴があります。しかし、近年がん化学療法の分野は、治療薬や治療方法、治療に伴う副作用を抑える薬の開発が進んだことにより、治療の場は入院から外来へ移行しています。当院も外来化学療法実施件数は年々増加しており、現在、1日30～60名ほどの患者さんが外来化学療法室で治療を受けています。



私は、がん化学療法看護認定看護師として外来化学療法室に勤務しています。がん化学療法看護認定看護師の役割は、安全かつ確実な化学療法の実施と共に、がん化学療法を受ける患者さんとそれを見守るご家族が安心して治療を受けられるように、また、がんと向き合いながら自分らしい生活を送ることができるように適切な支援を行うことです。日々の活動として、患者さんが納得して自分の治療を選択できるような意思決定支援、治療を受けながら安楽に日常生活を送れるようなセルフケア支援を行っています。さらに、治療を継続・完遂できるよう、医師・薬剤師をはじめとしたチームで協働しています。そして、がんと向き合う患者さんの治療に臨む思いを大切に、そばにいる医療者として、治療を受ける患者さんやご家族の気持ちを支えられる存在となるように心がけています。

新潟県立がんセンター新潟病院

<外来化学療法室(外来化学療法加算1)>

- ベッド数：30床
(ベッド20,リクライニングチェア10)
- 体制：医師、薬剤師、
看護師9名、クラーク
- 事前予約制、予約数20～70件/日
- 1日利用平均約36件(2015年度)
- 年間利用約8800件(2015年度)
(現在小児科以外受け入れ)



当院では、がん看護専門看護師や認定看護師による「がん看護外来」を開設しており、看護相談を行っています。看護相談では、治療に関する意思決定支援や副作用対策など日常生活の指導、治療に伴う不安や就労に関することなど個々に対応して行っていますので、ご利用ください。

おしらせ

新潟県立がんセンター新潟病院 平成28年度地域医療連携講演会

- 日時：平成29年3月2日（木）19:00より
- 会場：新潟県立がんセンター新潟病院 講堂（2階）
- プログラム：

講演

講演 1. 「がん治療のパラダイムシフト

～プレシジョンメディスンと免疫チェックポイント阻害剤～

内科部長 三浦 理

講演 2. 「除菌で消える胃 MALT リンパ腫の現状」

内科部長 加藤 俊幸

講演 3. 「がんセンターの今後を考える」

副院長 丸山 洋一

報告 「地域連携・相談支援センターから現況報告」

副看護師長 退院調整看護師 松澤 千恵子

連絡先：地域連携・相談支援センター（直通電話 025-266-5161）

新潟県立がんセンター新潟病院紹介動画をホームページに公開しました

新潟県立がんセンター新潟病院紹介動画

—創立50周年を迎えて—

平成23年作成



(ホームページのアドレス：<http://www.niigata-cc.jp/info/video.html>)

新潟県立がんセンター新潟病院 平成29年2月外来診療予定表

| | | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | |
|------------------------------------|---|--|--|---|---|---|--|
| 内科 (金曜Cは新潟大学より) | 401診 | D 張 高明 | A 成澤 林太郎 | D 廣瀬 貴之 | D 栗原 太郎 | B 小山 建一 | |
| | 402診 | C 大倉 裕二 | D 今井 洋介 | C 大倉 裕二 | D 石黒 卓朗 | D 今井 洋介 | |
| | 501診 | | F 谷 長行 | F 谷 長行 | | F 谷 長行 | |
| | 502診 | A 青柳 智也 | E 大山 泰郎 | A 加藤 俊幸 | E 大山 泰郎 | B 三浦 理 | |
| | 601診 | B 横山 晶 | A 栗田 聡(隔週) | B 三浦 理 | A 栗田 聡 | B 田中 洋史 | |
| | 602診 | A 塩路 和彦 | A 安住 基 | A 佐々木 俊哉 | A 塩路 和彦 | C 勝海 悟郎(午前) C 尾崎 和幸(午後) | |
| | 201診 | B 田中 洋史 | | B 野崎 幸一郎 | | B 庄子 聡 | |
| | 新患 (医師2名 隔週交替) ↓*参照 | A 成澤 林太郎 F 谷 長行 A 佐々木 俊哉 B 三浦 理 | A 青柳 智也 D 栗原 太郎 B 小山 建一 D 石黒 卓朗 | A 安住 基 E 大山 泰郎 B 田中 洋史 D 今井 洋介 | A 加藤 俊幸 B 庄子 聡 C 大倉 裕二 D 廣瀬 貴之 | A 塩路 和彦 D 張 高明 A 栗田 聡 B 野崎 幸一郎 | |
| | *新患は2名の医師が担当します。当日の担当医については内科外来にお問い合わせください。 | | | | | | |
| | A: 消化器 B: 呼吸器 C: 循環器 D: 血液 E: 内分泌 F: 糖尿病 | | | | | | |
| 小児科 | 1 診 | 小川 淳 | 渡辺 輝浩 | 細貝 亮介 | 小川 淳 | 渡辺 輝浩 | |
| | 2 診 | | | | 専門外来(11:00~ 2週は移植外来) | 細貝 亮介 | |
| 乳腺外科 消化器外科 | 1 診 | 佐藤 信昭(乳腺) | 藪崎 裕(胃) | 土屋 嘉昭(肝胆脾) | 中川 悟(食道・胃) | 瀧井 康公(大腸) | |
| | 2 診 | 金子 耕司(乳腺) | 松木 淳(胃) | 野村 達也(肝胆脾) | 番場 竹生(食道・胃) | 丸山 聡(大腸) | |
| | 3 診 | 長谷川 美樹(乳腺) | 會澤 雅樹(胃) | 神林 智寿子(乳腺) | 上原 拓明 | 野上 仁(大腸) | |
| | 4 診 | 遠藤 麻巴子 | 森岡 伸浩 | 山田/廣瀬[交替] | 藪崎 裕(再診) | 勝見/八木[交替] | |
| | 予防センター-乳腺 | | 金子 耕司 | 長谷川 美樹 | 神林 智寿子 | 神林/長谷川[交替] | |
| *乳腺外科は原則予約制です。 | | | | | | | |
| 呼吸器外科 | 1 診 | 吉谷 克雄 | 青木 正 | 岡田 英 | 青木 正 | 吉谷 克雄 | |
| | 2 診 | 佐藤 哲彰 | 岡田 英 | | | 岡田 英 | |
| *水曜日は新患の対応はできません。 | | | | | | | |
| 整形外科 | 新患 | 骨転移外来 隔週 島野/佐々木 | 島野 宏史 | 小林 宏人 | 佐々木 太郎 | (外来手術優先) | |
| | 再来 | 小林 宏人 | 佐々木 太郎 | | 島野 宏史 | 小林 宏人 | |
| *完全紹介制です。 | | | | | | | |
| 神経内科 (新潟大学より) | | 堅田 慎一 | | 二宮 格 | | | |
| 脳神経外科 | 1 診 | 高橋 英明 | | 五十川 瑞穂 | 高橋 英明 | 五十川 瑞穂 | |
| | 2 診 | 五十川 瑞穂 | | 高橋 英明 | 五十川 瑞穂 | 高橋 英明 | |
| | 3 診 | | | | | 宇塚 岳夫 (4週の午後) | |
| 婦人科 | 1 診 | 笹川 基 | 菊池 朗 | 笹川 基 | 柳瀬 徹 | 笹川 基 | |
| | 2 診 | 柳瀬 徹 | 日向 妙子 | 菊池 朗 | 菊池 朗 | 日向 妙子 | |
| | 3 診 | | | 遺伝性乳がん 卵巣がん外来 (大学・西野) | 遺伝性乳がん 卵巣がん外来 (大学・須田) | | |
| 皮膚科 | 1 診 (主に新患) | 高塚 純子 | 酒井 あかり | 竹之内 辰也 | 鹿児山 浩 | 高塚(1,3,5週) 酒井(2,4週) | |
| | 2 診 (主に再来) | 酒井 あかり | 竹之内 辰也 | 酒井(1,3,5週) 高塚(2,4週) | 高塚 純子 | 竹之内 辰也 | |
| | 3 診 | 鹿児山 浩 | 鹿児山 浩 | 鹿児山 浩 | 酒井 あかり | 鹿児山 浩 | |
| 泌尿器科 | 1 診 | 谷川 俊貴 | 武田 啓介 | 斎藤 俊弘 | 斎藤 俊弘 | 谷川 俊貴 | |
| | 2 診 | 小林 和博 | 石川 晶子 | 小林 和博 | 石川 晶子 | 武田 啓介 | |
| *新患は紹介状が必要です。 | | | | | | | |
| 眼科 | 1 診 | 原 浩昭 | 原 浩昭 | 原 浩昭 | 原 浩昭 | 原 浩昭 | |
| | 2 診 | | | 佐藤 敬子(午前) | 佐藤 敬子(午前) | 佐藤 敬子(午前) | |
| 頭頸部外科 | 1 診 | 佐藤 雄一郎 | 太田 久幸 | | 佐藤 雄一郎 | | |
| | 2 診 | 若杉 亮 | 若杉 亮 | | 太田 久幸 | | |
| | 3 診 | 太田 久幸 | 佐藤 雄一郎 | | 若杉 亮 | 若杉 亮 | |
| 放射線治療科 | 1 診 | 杉田 公 | 杉田 公 | 杉田 公 | 杉田 公 | 杉田 公 | |
| | 2 診 | 松本 康男 | 松本 康男 | 松本 康男 | 松本 康男 | 松本 康男 | |
| | 3 診 | 鮎川 文夫 | 鮎川 文夫 | 鮎川 文夫 | 鮎川 文夫 | | |
| *木曜日・金曜日は新患の対応ができない場合があります。 | | | | | | | |
| 麻酔科 | 1 診 | 富田 美佐緒 | 丸山 洋一 | 富田 美佐緒 | 丸山 洋一 | 富田 美佐緒 | |
| | 2 診 | 渋江 智栄子 | 富田 美佐緒 | 渋江 智栄子 | 富田 美佐緒 | 渋江 智栄子 | |
| | 術前 | | 高田 俊和 | | 高田 俊和 | 高田 俊和 | |
| 形成外科 | | | | 坂村 律生 | 坂村 律生 | | |
| 緩和ケア科 | 午前 | 本間 英之 | 本間 英之 | | 本間 英之 | 本間 英之 | |
| | 午後 | 本間 英之 | 本間 英之 | 本間(14:30~16:00) | 本間 英之 | 本間 英之 | |
| *当院に受診中であり、主治医より紹介された方のみ対象です。 | | | | | | | |
| *原則新患1日2名になります。新患依頼は外来へお問い合わせください。 | | | | | | | |
| 歯科口腔外科 (日本歯科大学より) | | 午前/午後 | 午前/午後 | 午前/午後 | 午前/午後 | 午前/午後 | |
| *当院に受診中であり、主治医より紹介された方のみ対象です。 | | | | | | | |

※ 変更となる場合がありますので、事前にご確認ください。(電話:025-234-0011)

新潟県立がんセンター新潟病院 地域連携・相談支援センター(地域連携部門)

TEL:025-234-0011 FAX:025-234-0022 受付時間 月~金 8:30~19:00

がんセンター新潟病院 URL: <http://www.niigata-cc.jp>

原則として予約日当日に行える検査はCT、腹部超音波、MRI、食道・胃・十二指腸内視鏡、PET-CT

時間外のFAXについては、平日夜は翌朝、金曜夜から日曜は月曜の朝にお返事申し上げます